（2024 年 10 月 27 日）

第 48 回　赤松小三郎研究会　のご報告

日時：　2024 年 10 月 12 日（土）13:00～16:30
場所：　文京区民センター　3D 会議室
出席者：17 名

【配布資料】

資料－1　「子孫が語る榎本武揚」～榎本隆一郎氏
資料－2　「八木剛助と赤松小三郎の関係-エピソードゼ ロ、プラス-」～八木晴之氏
資料－3　「赤松小三郎の『建白七策』と『薩土盟約』」～滝澤進氏
資料－4　「幕末の上田藩士『赤松小三郎』―日本の近代化にかけた思想と行動」～滝澤進氏

【内　　容】

【第２回幕末史特別講演】

講師：榎本隆一郎氏（榎本武揚玄孫）

演題：「子孫が語る榎本武揚」

ポイント：

・　榎本武揚の子孫として、私的なエピソードも交えながら、お話ししたい。

（修業時代）

・　榎本武揚、１８３６年、幕臣の次男として江戸に生まれる。
・　１８４７年に入学した昌平黌では最低の成績であったが、二期生として入学した長崎海軍伝習所では名指しで褒められるほどの好成績であった。
・　１８６２年、オランダ留学に出発したが、途中嵐に会い、無人島に漂着、海賊から船を奪って脱出した。
・　オランダでは、船舶運用術、砲術、蒸気機関学、化学、国際法を学んだが、学業に限らず、海外の文化・風習にも触れ、グローバルな観点を手に入れた。
・　１８６７年、オランダに発注した開陽丸が完成し、同船で横浜港に帰着。

（戊辰戦争・蝦夷地へ）

・　１８６８年の鳥羽伏見の戦いでは、阿波沖海戦で勝利したが、慶喜は大坂城を脱出。榎本は徹底抗戦を主張したが、慶喜の受け入れるところにならず。
・　同年８月、榎本は、江戸を脱出、奥羽地方を経由し、蝦夷地へ向かう。途中嵐に遭い、美加保丸が座礁・沈没。
・　同年１０月、鷲の木（現森町）に上陸し、五稜郭を占拠。松前藩を艦砲射撃。新政府樹立を宣言した。
・　１８６９年、函館戦争を戦うが、開陽丸を座礁のため失い、敗戦。
・　榎本は、降伏勧告を拒否する回答状とともに、自分が大事にしていたオルトランの「海律全書」を、戦火での焼失を避けるため、黒田清隆に贈った。
・　榎本は、責任を取って自刃しようとしたが、近習の大塚霍之丞に制止された。

（収監・出獄）

・　同年６月、榎本らは、唐丸籠で護送され、辰の口の兵部省軍務局糾問所の牢獄に入った。
・　福沢諭吉や黒田清隆の助命嘆願運動もあって、１８７２年１月、特赦により出獄し、３月放免となった。

（蝦夷地開拓）

・　同年４月、蝦夷開拓使（四等出仕で知事と同等）となり、豊富な地下資源を活かすため、小樽港を開発。

（大使・大臣就任）

・　１８７４年、駐露特命全権大使に任ぜられ、「樺太・千島交換条約」の締結に尽力する。
・　以後、初代逓信大臣（郵便マーク）、文部大臣、外務大臣（メキシコ植民）、農商務大臣（足尾銅山事件）等を歴任する。

（やせ我慢の説）

・　福沢諭吉から、「痩我慢の説」で、勝海舟とともに、批判を受けたが、返答せず。

（東京農業大学の創設等に尽力）

・　徳川育英会の設立、東京農業大学の創設に尽力した。
・　工業化学会・電気学会など様々な学会の会長・会頭も務めた。

（晩年）

・　６０歳を過ぎて、毎日1升酒。勝海舟、伊藤博文らと交流した。
・　１９０８年、腎臓病で死去。海軍葬

1. 八木剛助と赤松小三郎の関係―エピソード・０・＋」（発表）

発表者：八木晴之氏

（以下、八木様から発表のまとめをPDFでいただきましたので、ご覧ください）

八木剛助と赤松小三郎の関係　ＥＰＩＳＯＤＥ・０・＋

または

八木剛助と赤松小三郎の関係　ＥＰＩＳＯＤＥ・０・＋

をクリック下さい。

2. 赤松小三郎の建白七策と「薩土盟約」（発表）

発表者：滝澤　進氏

ポイント：

・　「薩土盟約」は、「大政奉還建白」から「大政奉還」に至る幕末史の流れを決定づけた重要なできごとの１つであった。
・　赤松小三郎の「建白七策」（慶応３年（１８６７）５月）と「薩土盟約」（同年６月）は、ともに、幕府と薩長等との武力衝突を回避し、平和裏に近代的な政体への体制移行を図ろう

とする、基本的な考え方を同じくするものであり、かつ、具体的な提言内容も重なる部分が多い。

・　これまでの識者の諸評価からも、「建白七策」が「薩土盟約」の締結に大きな影響を与えたものと考えられる。

（「薩土盟約」の締結）

・　慶応３年（１９６７）６月２２日、後藤象次郎の主導により、土佐藩士（寺村左膳、後藤象二郎ら）と薩摩藩士（小松帯刀、西郷隆盛ら）が会合し、坂本龍馬、中岡慎太郎立会いの下に、「政権の徳川家から朝廷への返還」と「二院制の議会（下院議員は普通選挙）の設立」の２点を骨子とする「薩土盟約」を結ぶことを決定した。

・　この盟約による議会は、英国流の議会制度にならい、「皇国の制度法則一切万機」の議決権を有するものであり、当時の多くの議会制度論とは異なるものであった。

（「薩土盟約」の解消）

・　その後、土佐藩が、山内容堂の指示により、「大政奉還建白書」から「将軍辞職条項」を削除することとしたことなどから、慶応３年（１８６７）９月９日、「薩土盟約」は、薩摩藩の変約により、解消された。他方、薩摩藩は、９月８日、薩長芸三藩による共同出兵計画を策定した。

（大政奉還建白書の提出）

・　慶応３年（１８６７）９月２０日、幕府若年寄の永井尚志は、後藤象次郎に、建白書の提出を促した。

・　土佐藩は、これを受けて、１０月３日、薩摩藩の事前の同意を得た上で、幕府に「大政奉還建白書」を提出した。

・　その内容は、「薩土盟約」から「将軍辞職条項」を除き、教育の振興に関する項目を加えたものであった。

3. １１月４日の「赤松小三郎講演会」について（報告）

報告者：関良基氏（荻原貴氏代読）

概要：１１月４日の「赤松小三郎講演会」の進め方についての説明があった。

4.　上田高校松尾祭（７月７日）のでの講演会について（報告）

報告者：関良基氏（荻原貴氏代読）

概要：７月７日に行われた上田高校松尾祭での報告者による講演会（同校郷土班主催）について、市民、高校生、先生方等９０名近い参加があり、赤松小三郎や松平忠固への関心が急速に高まっている様子が窺えた、などの報告があった。

5.「万延元年遣米使節子孫の会」での講演の報告

報告者：滝澤　進氏

概要：「万延元年遣米使節子孫の会」での報告者による講演（８月２３日　オンライン）についての報告があった。

6. 赤松小三郎研究会役員の変更

報告者：滝澤　進会長

概要：次のとおり赤松小三郎研究会役員が変更されたとの報告があった。

事務局長　退任　小山平六氏
　　新任　荻原貴氏
事務局　：新任　西澤澄雄氏
運営委員：退任　石川浩氏
　　新任　八木晴之氏

〇事務局よりお知らせ

・11月4日に赤松小三講演会開催のため、12月の研究会はお休みです。
・次回の第49回研究会は、2025年2月8日（土）開催予定です。
　詳細が決まり次第にHP・メール等でご案内します。

（記録：滝澤進・荻原貴）